

農作物の生育状況と今後の見通し

農業振興監経営支援課 農業普及推進室 まとめ  
令和3年4月15日 現在

作物名		生育状況等	今後の見通しと対策
作物	麦	<ul style="list-style-type: none"> <li>中部地区「しゅんれい」の出穂期は3月30日～4月7日頃、穂数は平年並～やや少ない傾向。一部で網斑病が散見される。</li> <li>農業試験場11月6日播種「しゅんれい」の出穂期は4月1日でほぼ平年並、穂揃期は4月5日でやや早い。生育期間を通して、葉色は濃く推移していたが、穂揃期の葉色は平年並。穂数は平年比やや少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術情報に基づく排水対策や病害防除の徹底を図る。</li> </ul>
	ナシ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハウス栽培の受粉作業は3月27日頃から始まり3月30日頃には終了。</li> <li>露地栽培の受粉作業が早い場所では3月29日頃から始まった。</li> <li>交配前の気温が高く推移し、開花予測より早い交配となった。</li> <li>* 第1回目予測(3/5):4/8、第4回目予測(3/26):4/5</li> <li>平坦地の二十世紀、新甘泉の交配は中心は4月2～3日が交配作業の中心。</li> <li>遅場の佐治地区でも4月7～8日(高山周辺)、4月12日(津野周辺)が交配作業の中心。</li> <li>4月10日、11日の降霜により、子房部分の変色や火ぶくれ状の障害が観察される園地が散見される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、霜害に注意する。</li> <li>黒星病、ケムシの発生に注意する。</li> <li>霜被害の有無や障害の程度、着果状況を見極めができる大きさになってから摘果作業を開始する。</li> </ul>
果樹	カキ	<ul style="list-style-type: none"> <li>河原試験地では、展葉初めが「輝太郎」4月3日(平年4月6日)、「西条」4月4日(平年4月10日)、「富有」4月4日(平年4月9日)で、前年より1～2日早く、平年より5～6日早い生育。</li> <li>4月10日、11日の降霜により若芽の変色や枯損等の霜害が観察される地域もある(河原試験地、河原町八日市など)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、霜害に注意する。</li> <li>芽の枯損等被害程度が多い園では、樹幹害虫対策のため追加防除等を行う。</li> </ul>
	ブドウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>無加温「巨峰」「ピオーネ」「シャインマスカット」は展葉3～5枚程度で、前年並の生育となっている。</li> <li>無加温「デラウエア」のジベレリン処理は、早い園で4月10日頃から始まっている。</li> <li>2～4月は生育が早く進み、平年よりやや生育がはやい。</li> <li>風害、霜害、目立った病害虫の発生はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き霜害に注意する。</li> <li>ハウスでは春の突風に注意し、バンドの締め直しや傷んだ部分の補強を行う。</li> <li>開花期までは新梢の生育を揃える努力をして、ジベレリンの適期処理をめざす。</li> </ul>
野菜	すいか	<ul style="list-style-type: none"> <li>【ハウス】3/1定植は4/9～4/10から交配開始。おおむね順調に交配は進んでいる。生育(葉枚数)は平年並み。</li> <li>【トンネル】定植は4/20ごろまで。生育は昨年よりやや早い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も天候が安定しないことが予想されているため、状況に応じて手交配も実施。</li> <li>交配前防除の徹底</li> <li>アブラムシと併せてつる枯れや菌核病の防除の呼びかけ</li> </ul>
	白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>【春ねぎ】収穫作業が進んでいる。今後の気温上昇により棒ネギや抽苔の恐れもあり、収穫遅れに注意が必要。</li> <li>【夏ねぎ】生育は順調。平年並み～早い生育となっている。</li> <li>【秋冬ねぎ】順調に定植が進んでいる。4/12～13の強風で定植したねぎが埋まるほ場がみられた。</li> <li>定植は2月下旬から始まり、4月15日で概ね終了。本年は温暖で落ち着いた天候に恵まれ、定植以降の生育は順調。病害虫はほぼ見られていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スリップス等の害虫被害が増加してくるので、薬剤防除による初期密度軽減に努める。</li> <li>さび病、べと病に対する予防防除の徹底。</li> </ul>
	ブロッコリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>定植は2月下旬から始まり、4月15日で概ね終了。本年は温暖で落ち着いた天候に恵まれ、定植以降の生育は順調。病害虫はほぼ見られていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年は雨続き・低温の影響でボトニングが多発したが、今年は天候と栽培管理改善によりボトニングは少ない見込み。</li> </ul>
	らっきょう	<ul style="list-style-type: none"> <li>【東部地区】4/12調査分</li> <li>m当たりの球重は1,207g(平年対比99%)、乾物率は24%(平年対比116%)と地下部の生育は進んでいる。しかし、地上部についてはm当たりの葉重が1,455g(平年対比83%)と遅れている。【中部地区】4/15試験掘り調査</li> <li>大球系:1株球重38.1g(平年比108%)、分球数4.8球(同86%)、1球重7.9g(同121%)、分球系も同様の傾向好天が続いており、平年並みの生育となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>灰色カビ病の防除を徹底し、健全葉の確保に努める。</li> <li>平年通り5/20ごろから出荷開始予定(中部地区)。</li> </ul>
	トマト(促成)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日照時間が多く、昨年よりも1週間程度早く生育が進み、3/19に初出荷(個選早出し)。4/1機械試運転による選果が開始。初日の出荷量は207ケースで、前年試運転時(4/6)は89ケースであり、2倍以上の出荷があった。前年より出荷ペースが早く、前倒しの見込み。4/13出荷式。灰色かび病の発生が見られ始めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>灰色かび病について、防除と換気、不要な葉の除去、葉面散布で対応を呼び掛けている。今後、なり疲れが発生すると見込まれるため、対策を検討中。</li> </ul>
	アスパラガス	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハウスの萌芽は早いところで2月中旬から始まっており3月中旬から収穫ピークとなっている。</li> <li>露地についても萌芽が例年よりやや早まっており、八頭町では4月上旬時点で萌芽・出荷が始まっている。</li> <li>ハウスでは例年同様一部で曲がりが発生している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気温の上昇に伴って曲がりは少なくなる見込み。</li> </ul>
	にんじん(春どり)	<ul style="list-style-type: none"> <li>べたがけ被覆中。4/13の強風で一部べたがけがはぐれるほ場もみられたが、おおむね生育良好。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>べたがけの除去と追肥、間引き、防除(黒葉枯病対策)を行う。</li> </ul>
花き	シンテッポウユリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年産はこれまで主流としていたF1オーガスタの取り扱いがなくなったことから、品種の変更を余儀なくされている。(露地作型)</li> <li>【東部地区】</li> <li>本年からメーカー側の都合で、品種を変更している。</li> <li>郡家・船岡地区では、いずれの生産者のセル苗もオーガスタEXに比べて雷山2号セレクトの生育が旺盛な傾向で、本葉2～3枚と例年よりやや生育が早い。</li> <li>アブラムシや葉枯症状が見られる苗があり、定植までに抑え込む必要あり。</li> <li>【中部地区】</li> <li>倉吉地区では、F1オーガスタDX、優雅の地床苗は順調に生育中で、F1オーガスタDXの葉枚数は2.5枚程度。</li> <li>北栄町での委託育苗苗は順調に生育し、2.5葉程度で定植適期となり、4月10日頃から本圃への定植が始まった。</li> <li>(ハウス抑制作型)</li> <li>【中部地区】</li> <li>倉吉市の1戸は4月5日に冷蔵庫から出庫。まだ発芽は確認していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>露地では、アブラムシ、葉枯病の防除の徹底を行う。</li> <li>露地の定植は、東部地区では4/下～5/上の予定、倉吉地区では5/上からの予定。</li> <li>ハウス抑制作型では、発芽状況をよく確認し、覆土のタイミングを逃さないよう注意する。</li> <li>発芽したものから覆土を行い、5月上旬頃に補植作業になる見込み。</li> </ul>
	リンドウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>【智頭町】</li> <li>例年になく萌芽が早く、標高に関わらず、3月30日には草丈10～30cm程度となっている。例年より2～3週間程度早いですが、前年並の生育となっている。</li> <li>4月10、11日の低温後に生長点付近が水浸状になる症状が散見された。</li> <li>【三朝町】</li> <li>萌芽は昨年より約10日程度早い、現在の草丈は約30cm。病虫害の発生は無い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水浸状の症状について、今後の状況を確認。</li> <li>アブラムシ、スリップス等の早期発生が予想されることから、防除の徹底が必要。</li> <li>株の間引き作業(立茎数を1株あたり約10本に調整)が近日中に行われる予定。</li> </ul>
	イタリアンライグラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>【東伯地区】</li> <li>例年より早く、収穫作業が一部終了した</li> <li>【大山地区】</li> <li>草丈15～30cm程度</li> <li>【西部地区】</li> <li>概ね平年並み。圃場によるばらつきあり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【東伯地区】</li> <li>生育は順調、5月連休前に収穫作業が本格化する見込み</li> <li>【大山地区】</li> <li>5月上旬から収穫開始見込み</li> </ul>
その他	農作業安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年4月15日広島地方気象台発表の中国地方1か月予報によると、4月17日から4月30日の気温は平年並、5月1日から5月14日は平年並か高いと予想されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>春先は身体が暑さに慣れていないため、農作業中の熱中症には注意する。</li> <li>体調が悪い時には、農作業を行わないようにする。</li> <li>気温・湿度が高い日の農作業中には30分ごとに休憩をとり、コップ1杯の水分を補給する。</li> <li>特に農業用ハウス内での作業では注意する。</li> <li>気温・湿度が高い中でマスクを着用すると熱中症のリスクが高まるため、屋外での農作業などにおいて人と十分な距離(2m以上)が確保できる場合には、マスクを外して行う。</li> <li>マスクを着用している場合には強い負荷の作業は避ける。</li> </ul>